

第25回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会 会議録

日時：令和 7 年10月 7 日(火)19:00～20:00

場所：多治見市立笠原中学校 会議室

【出席者】

委 員：笹田委員、岡本委員、大向委員、伊藤委員、稲葉委員、
加藤委員、森本委員、各務委員、水野委員、前田委員、
加知委員、熊崎委員、大山委員、矢野委員

保育幼稚園課：山崎、富田

事務局：教育長、副教育長

教育推進課：丹羽、南谷、川原

教育総務課：市川、高田、瀬瀬

教育研究所：前田

教育相談室：山中

【欠席者】

なし

(要点筆記)

開会	
会長	・第25回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を開会します。
次第 1 教育長挨拶	
教育長	・改めましてみなさんこんばんは、多治見市教育長の仙石と申します。 今、会長から第25回とのお話がありまして、長い間やってきたこの研究会ですけれども、本当に大詰めを迎えてきたなと感じております。実は今日も教育委員会内で、担当者と打ち合わせをしておりました。打ち合わせの内容としては、そろそろ建物が完成したときの竣工式の日程ですとか、こういった方をお呼びするかとか、そのあたりの調整が始まりました。まだ決定はしておりませんので大変申し訳ないのですが、ただ、そういった式典を地域の方たちに学校がオープンする前の出来上がった状態をしっかりと内覧してもらうために、できれば平日ではなく、土曜日の日曜日に併せてやっていただけないかなという話を丁度話しておりました。それに先立って、来週の10月18日には保護者説明会が開かれます。今の中学校の2年生以下から小学校1年生まで、あるいは来年入学予定の保護者の方を対象にした説明会が予定されておりまして、本当に開校が迫ってきたなと思っております。現場の校長先生のお二人の話を聞くと、(開校が)迫ってきたが、まだまだやることがあり大変だというお話がありますけれど、でもやはりこういうものって、このやって迫ってくると色々なことが逆に思いついて忙しくなるというのは定番だと思います。今日はこうして迫ってきた中で、最終的な調整といった形で、それこそ議論したことを報告しながら、ある意味確認を取ってやっ

ていけたらなと思っております。

あまり（挨拶が）長くなってはいけませんけれども、先週工事現場に私行ってまいりました。ただ、まだ床が貼られていないのでピンとこないですけれども、間取りなどは見させていただきました。造り自体はシンプルです。シンプルですけれども使いやすい、そういう印象を持ちましたし、やはり笠原小中学校の特色は建物で出すのではなくて、やはり中身の教育でしっかりとした特色を出していく、そういった形になるのが一番だと思いますので、そういう意味では相応しい校舎かな、なんて感想を持ちました。では、本日もよろしくお願いいたします。

次第 2 現在の検討状況について

会長	・ 次第 2 「現在の検討状況」について事務局に説明を求めます。 （各ワーキンググループ検討状況について報告・説明）
会長	・ 只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
会長	・ 通学路について、一部検討と書いてありますが、どここのところを検討しておられますか。
笠中校長	・ 細かな箇所については随時話し合いをしているというのが現状で、特に大きいところでいうと、来年 4 月からここ（笠原中学校跡地）の中京学院大学の準備が始まるということで、その前（笠原中学校前）の通りの工事車両の出入りでいうと、向こう側を通したほうが良いということも考えていましたが、向こう側が土砂災害の指定になっているということと、ガードパイプが付いておりません。そう思うと、子どもたちの登下校の時間帯は限られるので、そこは警備員さんにちゃんと見ていただくということで、従来通り（の道）ということも考えています。
会長	・ 私も実際歩いていて感じたのですが、中学生が通るところで、ここ（笠原中学校）のすぐ下のところの塀が、地震があったら倒れるかもしれないなということで、子どもが通るのをやめてくださいと中学校にお願いしに行きました。そうしたら、早速対応してくださって、今は、ほとんど子どもは通らないみたいです。ただ、あそこのブロック塀が壊れると（怖い）というふうに思っていて、そうみると、実際に歩いてみると色々なところがやっぱり怖いと思いますよね。その辺りも、子どもの安全のこと、安全な登下校を考えると、きちっと歩いて確認してみるというのはやはり大切だなと思ったので、質問させていただきました。
委員	・ 新 7 年生、つまり新中学 1 年生の子が、必要な服などを買うということでしたが、例えば、8 年生・9 年生も古くなったら買いたいなというときに、新 7 年生のポロシャツや服などを買うというのは、あり得るのですか。
笠中校長	・ 一応現 1・2 年生は今度新 2・3 年生になって、そこは制服にせよ、体操着にせよ、現行のものを使用するということですが、例えばそうい

	う子に何年か先に弟や妹がいて、3年生の終わりくらいになったときにはすぐお下がりとして使えるようにということも柔軟に対応していきます。ご家庭の経済的な負担ができるだけ抑制されるようにということをやっていきます。
委員	・通学路の件ですが、こども110番というマップもありますが、(通学路が)見直しということなら、そういった家の方にも連絡をしていただいて、しっかりとしたものが出来たらいいなと思うのですけれども、いかがでしょうか。
笠小校長	・こども110番の家については、小学校のほうでは毎年お礼のお手紙を出すようにしているということと、例年更新をしております。ここ何年かのところでも、こども110番の家を辞退したいというようにおっしゃる事業所やおうちの方もいらっしゃる、年度更新をしているところですし、また、通学路が変わるということもありますので、そのところも改めて確認を進めていきたいと思います。
笠中校長	・先ほど委員さんからもお話がありましたが、(制服については)新2・3年生はそういった状況です。また新7年生についても、今のところこの辺りは用品店さんが限られていて、深見商店さんが一番多いというふうに聞いておりますけれども、50名ぐらいの方がこれから採寸にかかろうかというところで、中には、若干数そのままセーラー服と詰襟でそのままいきたいというご家庭もあると聞いております。そこも認めておりますし、ブレザーには確かになっていきますけれども、4年とか5年とか年限は切らないで、伝統のある詰襟・セーラー服でずっとやっていくというご家庭があればそこも否定はしないというような方向で考えております。
会長	・教育委員会さんの方にはお願いなのですが、校長WGのところで人事配置で教頭は3名と、あと一般教育のほうの加配をいただけないかというように思うのですが、そのあたりも頑張っていただきたいと思います。今答えるのもなかなか難しいと思いますけれど。
事務局	・加配については、現在、それこそ他の学校も含めとても厳しい状況にあるというのが事実でありますし、教職員不足というのも昨今大変言われているところでありますので、努力はいたしますけれども、確約は一切できないというところはご理解いただきたいと思います。
委員	・学校ごとの特色というところで、笠原小中学校も出していきたいと思っておりますので、学校長とも相談させていただきながら検討していきますので、よろしくお願いいたします。
会長	・あと、できるだけ地域の方も色々と学校教育に関われるというか、例えば僕がお願いされていることとして、今度土と版画展があるので、粘土作品の指導をしに行きますが、そんなように、色んな形で地域にも色々な才能を持った方がおそらくおりますので、そういった方も教科の

	指導で来ていただけたらと。そんなふうで地域の教育力も使っていただくとうれしいなと思います。
笠原校長	・現在、学校運営協議会は小中で1つにして今年立ち上げ、スタートしておりますが、一方で地域学校協働活動といういわゆる地域の人材・教育力を学校の中に、というような仕組みは、まだまだこれからだと思います。そのため、運営協議会の皆様のご助言も頂きながら、あとはオール笠原まいてさんといった地元の色々な機能も総合的に考えて、学校支援の活動をできるだけ広げていきたいなと思っております。
会長	・今度地域で職場体験がありますよね。あちらも地域の方々が色々と協力してくださるみたいなので、色々な形で地域の方たちとともに子どもたちを育てていくということを大切にしていいただければいいなと思います。
委員	・先ほど、教職員さんの加配の話がありましたが、来年度以降ALTはどんな具合になるのかわかったりしますか。
事務局	・市のほうではALTの活動を増やしたり減らしたりだとかということは考えていなくて、来年度予算にむけて執行していく、現状維持というように考えておりますが、もちろんALTさんの移動を含めた人事配置についてはまた検討していく段階にあるかと思っております。
会長	・ということは、ALTの方は2名配置されるということですね。
事務局	・現状維持を基本で考えておりますので、中学校に1名、小学校に2名の合計3名のALTを配置、というように予定はしております。
委員	・余談で、（オール笠原まいてで作成している）校章と新しい帽子的の件ですが、校章が1個大体1300円くらいで作ろうと思っております。同じく帽子的もちょっと値上がりをして、大体1300円くらいで、両方ともそれくらいの値段になると思います。初年度（令和8年度）は、中学校の校章については、7・8・9年生に全員に献品して、帽子的は新1年生に売り出していただこうと思っております。深見商店さんで帽子的の取り扱いを引き続き行いますので、プレゼントした帽子的が小さくなってしまった場合には、深見商店さんに買いに行ってくださいという形にします。その代わり、オール笠原まいてという名前は（入って）無い帽子的にはなりますけれど、そんなふうに今制作をしております。
委員	・余談になっちゃいますが、これから教育の分野にもAIが出てくると思うのですが、AIの取締役が出てきたりと話題になっておりますが、この新しい学校でもAIを利用した教育というのはやはり今後実現されていくのでしょうか。
事務局	・AIについて、教員のほうでも検証しています。ただ、AIを使うというところは、教員の負担軽減、例えば文章の案を作ってもらえとかそういったところでの活用が今のところ現実的かなと思っております。中には一部AIを使っている学校もありますし、子どものドリルでは電子ドリル

	があるのですが、その中でも一部AIの機能が入っていて、AIドリルというものを使用している学校もあります。子どもの進度にあった問題を選んでくれるものですか、そういった形でAIが入ってきてはいます。子どもが使うといいなと思う場面では、AIと英会話ができるというものも今多数出てきていますので、そういったものが効果的に使えるのかどうかというのは検証しながら、特に安全性を確認しながら取り入れていきたいなと考えております。
会長 委員	・PTAの方は順調に進んでおりますでしょうか。 ・順調です。ほとんど草案をまとめて、これからは規約ではなくて、来年度の実務的なところに向かっていく状態です。多少の文章の表現などは詰めが必要ですが、概ね流れは決まったので、来年に向けていよいよという感じですね。
会長 笠中校長	・中学校もクラブ活動ってありましたっけ。(ジュニアクラブではなく) ・小学校の4年生、前期課程の4・5・6年生で行う、いわゆる月一のクラブというものを、後期課程の生徒も一緒にやれるような機会にしていきたいなということで今調整しております。後期課程の生徒については、小学校(前期課程)の子が入っている囲碁・将棋やパソコンクラブとかにぽっと行くのではなくて、基本所属している中学校の部活動としてやっているものをこのクラブの時間も部活動としてやるというようなイメージです。その中に、後期課程の生徒の中に例えばバスケットボールのところに前期課程の児童と一緒に交じって活動する機会ができないかなというそんなイメージで考えています。呼称はクラブということになるかもしれませんが、教育課程上は、前期課程の子はクラブ活動ですけど、後期課程の子は部活動の時間としてやっているということですね。
会長	・委員さんの中には昔の部活動をイメージしてみえる方もいらっしゃるかもしれませんが、今はもうそういう時代ではないんですね。朝の部活動はありませんし、放課後の部活動も16時くらいから放課になりますので、それから下校の時間までそんなに時間はありませんし、昔のイメージで部活動を想像すると、今は違っているのですが、そんなふうに少しずつ学校も変わりつつあって、その中でどうやってクラブ活動をやっていくのか、時間を確保していくのかなと思って質問してみました。
委員	・スポーツフェスティバルや部活動・クラブ活動以外に小中合同でやる行事とかって、例えば合唱発表会とか、そうやって一緒にやるものって他にないかございますか。
笠小校長	・今のところはこの二本立て(スポーツフェスティバル・合唱発表会)なんですけれども、また今後校舎も一緒になるということもありますし検討の余地はあるなと思っています。それから、子どもたちの中でいくと、先日も今年度後期の児童生徒会の役員を決める立会演説会もあった

	のですが、授業もこれから行われる可能性も考えられますし、一緒に遊ぶとか触れ合う機会をもっと持ちたいというような願いも持っております。既に、掃除の姿を学び合うということもやっていますし、日常生活の中でも、将来的に1年生から9年生の子たちが触れ合う機会を多くしながら、学びや憧れだとか、そういった校内の中での関係づくりというのは今後さらに進んでいくと思われま
会長	・先日スポーツフェスティバルを見させていただいたのですが、非常に自然な形で小中の子どもたちが一緒になってやっておりましたので、とてもいい光景だなと思って見ておりました。しかも分担も非常に上手にやられていたので、これもいい姿だなと思っておりました。あんな感じで少しずつ統合というか、小中の合同にむけて歩みが始まっているなと思います。あとは、先生方が小学校と中学校で行き来するというのも行っていて、いい姿で義務教育学校が始まる準備をしてくれているなと思っています。
委員	・部活動の話ですが、先ほどPTAの方も言われたみたいに、負担軽減ということもあり、なかなか部活動も難しい時代になってきているなと思う中で、例えば近いうちに中京学院大学さんがここにみえるということで、部活動が地域社会に移行している中で、そういうところに大学とタッグを組むというようなそういった計画はあったりするのですか。
事務局	・そういったことも含めたどういう関わりができるかということは、検討をする会がございまして、教育委員会として提案できることは、例えば委員さんが言われたことや、(中京学院大学さんは)アクティブチャイルドプログラムが盛んな大学と伺っておりますので、そういったものが市内の子どもたちに広がりといういいなという話題にはなっております。今はまだ話題になっている状況で、これからどうするかという段階でございます。
教育長	・補足ですが、中京学院大学さん自体が総合型地域スポーツクラブというものに非常に関心が高くて、ただ、まだ開学前ですので、どれくらいそちらに力を入れていかれるかが未知数なので、何とも言えないですけども、大学運営が軌道に乗ってくれば、地域のスポーツクラブの最低限だと指導者、できたらそこの運営も含めての関与ということは視野に入れていらっしゃるみたいです。ただやはり開学前ですので。そういったことにかかなり積極的な姿勢でいらっしゃるということは確かなようです。
委員	・確か教職課程は無いですね。あれば、その教職課程の子が地域のそういうところ(子どもたちと関わる場所など)に足を運びなさいということがマストになってくるのかなと何となく思ったりしましたが、確か令和12年か13年度から小学校から順次、学習指導要領が変わってくるじゃないですか。だいたい弾力的に運用できるみたいな感じになってく

	る、大体4、5年先、遠い未来じゃないかなと思ったときに、そういうのが入ってくると地域移行がよりうまいことできるのかな、なんて思いました。
笠中校長	・とにかく開校するというのが至上命令なので、それにむけてそれぞれ進めてきている訳ですけど、今の学校の部活動のことにせよ、異学年の交流のことにせよ、可能性は無限大だと思います。まずは開校して、走りながら考えていくということで、おそらく笠原小中モデルというようになっていくには、3年とか5年とか、ひょっとしたらもっと時間がかかることかもしれませんが、やりながらとにかく変えていくということではないですかね。
委員	・また余談になりますが、先日のスポーツフェスティバルを見させていただいてマイナスな意見になっちゃいますが、体力の格差が非常に広がっているなと実感しております。学力もそうですけど、やれる子やらない子、部活動で運動する子もいればそうでない子もいて、その子の差が昔より大きく広がっているような気がして、この辺の格差をどこまで教育として容認するか、どのようにお考えでしょうか。
笠中校長	・私は体育の教員として、(委員さんに)まったくの同感です。今、中学校の校長の中でも部活動や地域以降のあり方は本当に大きな話題で、毎回のようには話し合っています。だんだん地域移行が進んできたので、いわゆる学校の看板を背負って大会に出るということが、ほとんど無くなってきているんですね。とはいえ、多治見市の教育基本計画の中には、多治見市の子に体力と学力をちゃんとつけていきますよということを謳っているし、僕たちは学校として大会に出て成績を残す・残さないなんてことよりも、やっぱり運動の習慣とか体力の維持・向上をやっているかなければいけないことなので、そう思うと部活・クラブのあり方ももう少し工夫をして時間とか量とかを確保できるように工夫してやっていると、ということを思っています。もう一つ、子どもたちの中で体を動かして発散するということはとても大事で、小学校の子はもちろんですけど中学生の子たちでもそれは大事なことだと思っているので、そこは部活あるなしに拘らず、学校としてやっていかないと、と考えています。
委員	・私は体力仕事なので、子どものときに運動を最大限しないとそこから(体力が)落ちていって、運動しない子はより早く(体力が)落ちちゃうので、それが長い将来になって踏ん張るということを経験していないと、勉強もそうですけど、一回踏ん張るという局面をどこまで今後教えるかということは難しい問題だなと思っております。
笠小校長	・今のことに関わるかどうかわかりませんが、丁度今の小学校6年生の子たちが、入学が2ヶ月コロナ禍で遅れた子どもたちです。コロナ禍でどれくらいの運動の機会を得ていたのかな、それから、それ以上に今中

教育長

学生の子たちはちょうど体を動かして運動能力あるいは体力を伸ばしていく時期にあたっているということもあります。今、幼稚園さんでも保育園さんでも体づくりの運動とか、投げたり走ったり跳んだりだという動きづくりをたくさん取り入れながら取り組んでいらっしゃっています。少し長い目で見ながら、また部活動のジュニアクラブという形が変わってきている時代ではありますけれども、それぞれ幼少期からその機会を持っていかなくちゃならないという思いを持ちながら、幼保小中が今後また取り組んでいく、これからかなということは思っています。

・その件で私も一言いいですか。今のご意見を伺って、新たな発見というか思うところがありました。なにかというと、市全体をみて仕事をしていると、多治見の小中学生の体力テストの結果を平均点でみると、実はコロナより前は全国平均よりも若干低めだったんですね。でも、コロナ禍を経て今、全国平均よりも高めになっているんです。他の地域が落ちたのに多治見はあんまり体力が落ちなかった、ということでそういう結果になっているんですけども、ただ、それはあくまでも平均点なんですよね。今ご指摘のとおり、平均点じゃなくて、一つの学校の中でも差が大きくなっているということが現実としてあるとするなら、そちらにむけての対策というのをやっぱり考えないといけない点に気づかされたというのが一点と、もう一つは、では多治見はなぜ、たとえ平均点でも下がらなかったのかということ、今笠小校長先生から話があったように、保育園幼稚園の時から教育委員会も働きかけて、運動習慣をつけさせるというのをものすごく一生懸命やりだしたんですね、特にここ十年がそうなんですけれど。この効果がやっぱり今小中学生の世代にまでだいぶ生きてきているのかな、と一つの推測としては成り立つので、取り組みは単に中学校の体育だけ、小学校の体育だけということではなくて、幼保小中を含めたこの十何年の世代に対するアプローチという中で、なんとか今の課題にも対応していけるようには、もちろん中学校の部活動のあり方も含めてなんですけど、やっていけたらなと、今ご意見を伺って改めて思いました。

委員

・私、長男が小学一年生で、次男が年中で、初めてのスポーツフェスティバルを見させてもらって、とても感動しました。それこそ一番初めに校長先生が児童と一緒にいる姿とか、どうしても小中一緒だと種目数自体でいうと少なくともはなっちゃうのかなと思うんですけど、あれを見ただけですごく感動して。長男が家に帰ってきて、「どうやった？」と聞いたら、「中学生のお兄ちゃんたちがめっちゃかっこよかったし、優しかった！」と。それ聞いてすごく嬉しくて、これって別に種目数とか関係ないなと本当に思いました。それを聞いて次男が、実は（スポーツフェスティバルの）朝に次男が「僕も見に行きたい」とぐずっていて、（長男が）そういう話をするものだから、やっぱり僕も行きたかったという話

	をしていて。今の話を伺って、輝いている中学生の子たちと一緒に空間にいるのはめっちゃくちゃ価値があるなということを思いました。例えば、それこそ幼稚園と保育園も一緒になるという準備を進めている中で、近い将来向こうに移動して距離もある程度近くなるとすると、幼保の子たちが、一部だけでもいいので、小中学校のほうに見学しに行くということになれば、輝いているお兄ちゃん、お姉ちゃんの姿を見るというのは何にも代えがたい価値のある教育だと感じて、そういった企画ができるようになると思うといいのかなと、聞いていて思いました。
教育長	・遠足でここ（笠原中学校）まで来るとするのはちょっと距離がありますか。幼稚園の子が。
事務局	・確か以前、中学校の運動会を保育園幼稚園の子たちが、歩いて見に来ていた時期があったかと思いますので、今後どうするかは別ですけども、可能ではないでしょうか。
会長	・先日は幼保の園長先生も、この姿を見せたいねと言われてみえていたので、幼保から小学校までそこまで距離もないので、全部は見せられないかもしれないけど、見せるというようなことは考えてみえるみたいですよ。
委員	・10月1日の朝の開会式の時に、義務教育学校の目指すべき姿はこういうことだなということは思いました。中学校3年生の子と小学校6年生の子が並ぶというのは、ああこういうのを目指すべきなんだなと。子どもたちが15歳、16歳と成長するまでの間を子ども同士で学び合うというのは非常に意味があるなと感じたので、非常に期待しております。
笠中校長	・北方の南学園の校長先生のお話で非常に印象的だったのが、一緒に住んでいる、一緒に学校の中で9学年いるということだけでもそれはすごい大きな経験だということです。特に中学生だとやんちゃしたい時期ですけど、でも小学校の子が近くにいて、小さい子がそばにいて、後期課程（中学生）頑張らなきゃいけないなと思ったり、そういう色んな効果がきつとあるんだろうなと思います。
会長	・その他、質問等ありませんでしょうか。 （特になし）
次第3 その他	
会長	・次第3 その他「笠原小中学校保護者説明会について」事務局に説明を求めます。
事務局	（事務局より説明）
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・それは、出席してくださいと案内がありましたけど、行ったほうがいいんですよね。
事務局	・実際には保護者さん宛ての内容になっておりまして、中身については

	今まで第 6 回まで発行させていただいております「笠原幼保小中ニュース 杜」の内容が主になりますので、必ずご出席をお願いするものではございませんが、来ていただいた方には一緒にご覧になっていただければと思います。
会長	・その他、質問等ありませんでしょうか。 (特になし)
会長	・それでは続きまして「保育幼稚園課よりお知らせ」がありますので、よろしくお願いいたします。
保育幼稚園	(保育幼稚園課より説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
会長	・今仮設園舎が建っているところは、園庭になるんですね。
保育幼稚園	・はい、園庭になります。
委員	・私保育園の育友会の会長もやっていたのですが、ずっと代々会長に引き継がれてきていたのが、未満児の部屋のドアが固いということだったんですが、解消されましたね。
会長	・本当に良くなりましたよね。床暖房になったりと。
委員	・逆に今まではどうされていたんですか。絨毯とか敷いていたんですかね。
保育幼稚園	・色々と工夫をしながらやられていたのだと思います。やっと快適な環境の中で（保育が）できるようになって、ほっとしております。
委員	・星ヶ台保育園と同じくらいの大きさでしたか。それよりも小さいくらいですかね。
保育幼稚園	・星ヶ台の方がやはり大きいですね。
委員	・そうですか。たくさんの方が笠原に住んでくれるといいですね。
会長	・その他、質問等ありませんでしょうか。 (特になし)
会長	・では、全体で何か質問はございますか。
会長	・ちょっとお聞きしたいのが、小学校中学校とこれで閉校になるんですね。なにか儀式等やられる予定はありますか。セレモニーのような。
笠小校長	・小学校のほうは、向こうの校舎からこちら（仮設校舎）に移ってくるときに、150 周年記念の式典があったのと、校舎のお別れということがありましたので、校内のイベントを子どもたちと一緒にやってきました。今度は新しい学校に移っていくということで、閉校行事ということでは考えてはいないですけれども、これから未来の笠原小中学校に歩みだすということで、前回バルーンリリースをやったら大変好評でしたので、PTA の方にもお願いをして、子どもたちと一緒に、できればお金の都合もありますが、中学生の子たちも一緒に運動場でできないかなというふう

笠中校長	に考えているところです。 ・ 中学校のほうは2月 21 日の土曜日の午後に閉校記念の行事ということで、大きな講演会を予定しておりますけれど、その日の午前中に授業をやるのか、行事にするのかというあたりを今練っている最中です。
会長	・ 教育委員会としては、竣工式と内覧会をやられるということで。
教育長	・ 新しい小中学校についてはそうでした、閉校については今お話があったとおり、各学校で考えていただいております。
会長	・ その他、質問等ありませんでしょうか。 (特になし)

副教育長挨拶

会長	・ 最後に、副教育長よりご挨拶を願います。
副教育長	・ 本日はどうもありがとうございました。本当にいよいよという気持ちで、当初始まった頃はあまり現実味がなかったですが、建設中の校舎を見たり、合同のスポーツフェスティバルをやると、いよいよ一緒になっていくのだなという思いと、やっぱり非常に楽しみだなということを今日のお話を伺って感じることができました。常々教育長が、多治見の教育の基本方針の中に「挑戦」という言葉を入れているんですけども、色々やってみようというところで、今私たちは子どもたちのために足場を作っていますが、あくまで足場であって、そこで活躍するのは子どもたちです。先ほどのお話でもありましたが、いざ学校が始まってすべて決めきるのではなくて、色々やっけていきながら気づいていく、とはいえ上手くいかないこともあるでしょう。じゃあそういったところをどうやって解決していくかといったところは、子どもたちとの実際の動きを見ながら、やはり考えていくべきだろうと。ここまでできることは大人たちがやる、あとはやはり子どもたちに委ねていきながら、今は子どもの主体性を大事にしながら作っていくということが大事だと思います。是非子どもたちの心に聞きながら、よりよいものになっていくよう応援していきたいと思っていますし、成功させたいという気持ちで、皆さんでやっていきたいと思っていますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

閉会

会長	・ 以上で、第 25 回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を閉会します。
----	--

—以上—